

新聞で学ぼう



踏むたび鳴る ピアノの階段

階段を踏むとドレミ。ピアノの鍵盤の形をした階段が、JR岐阜駅に隣接する商業施設「アクティブG」に設置されました。写真

JR岐阜駅隣接の施設

真。

施設の二階と三階を結ぶ階段で長さ八・六メートル、幅一・六メートル、二十四段あり、一番下が「ミ」で、上るごとに「ソラ」と音が高くなり、二オクターブとその上の「ソ」まで鳴ります。内蔵したセンサーによって、天井のスピーカーから音が出る仕組みです。三月三十一日にあったセレモニーでは、岐阜市の聖マリア女学院高校の生徒が演奏を披露しました。

当日は毎日午後一時半～四時に、上りに限り通行でき、音を楽しめます。また六月十六日まで施設内の専用投函箱で、この階段の愛称を募集しています。



プロ野球セ、パ両リーグが3月30日に開幕しました。ナゴヤドームでは、女優武井咲さんが始球式＝写真⑥。ボールはバウンドしてしまいましたが、「失敗したけど、中日は優勝します」とエールを送りました。高木守道監督率いる中日は4-2で広島に快勝。リーグ3連覇に向けて好発進しました。



最近の動き

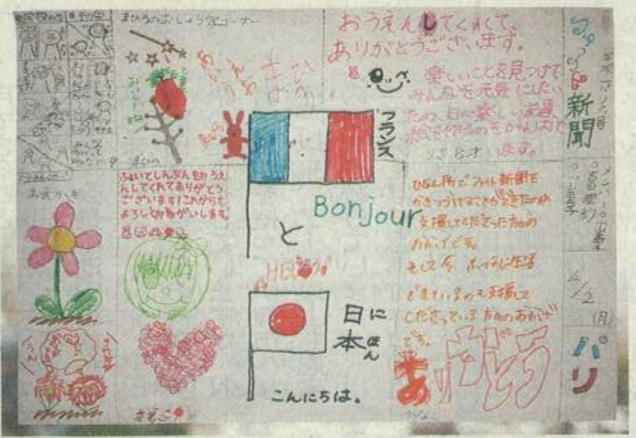
4月1日 和歌山県新宮市の熊野速玉大社の「お田植え祭」が1日、同市であり、地元の女子中学生5人が早乙女姿で苗を植えました＝写真⑦。

5人は水の冷たさに思わず声を上げながらも丁寧に田植え。お米は8月末に収穫され、伊勢神宮に献上するほか、熊野速玉大社の神事で使われます。

交流会に参加する「ファイト新聞」編集部のメンバーとフランスの子どもたち＝3日、フランス・パリ郊外で(共同)



震災壁新聞 海を渡る



フランスの子どもに贈った「ファイト新聞」特別編集号(共同)

宮城の小中学生 パリで交流会

東日本大震災後、宮城県気仙沼市で壁新聞「ファイト新聞」を作った小中学生が2日、フランス・パリの国連教育科学文化機関(ユネスコ)本部でたえられました。三日にはパリ郊外で、現地の子どもたちとの交流会に参加し、特別編集した新聞を手渡しました。

「ファイト新聞は震災発生の一週間後、避難所の体育館で、ユネスコ本部を訪れたのは、初代編集長の小学三年吉田理紗さん(左)、第二編集長の小学五年小山里子さん(右)、小山さんの姉で編集部員の中学二年夢子さん(三)、吉田さんの妹麻尋ちゃん(四)。フランスユネスコ・バンダリン文化局長は「皆さんは未来への光。その勇気をたたえたい」と述べました。

ユネスコがたたえる

で、子どもたちの呼び掛けによって作られた手書きの壁新聞。日々の話題を提供し、避難所で生活する人々を励ました。昨年七月までに五十号を発行し、いったん休刊。ことしに入ってから不定期で作り、二月に復刊しました。

ジュニア中日

ジュニア中日編集室
FAX 052 (221) 0591
junior@chunichi.co.jp

ドアラが案内するよ
17～20 ページ
ぬきとって
読んでね

ロボットの張る闘士君 金沢市教育



ロボットの闘士君です。長い黒い紙を巻いて、目を指して、海を飛びます。四枚つなげると、長い黒い紙を巻いて、目を指して、海を飛びます。双二

双二

ロボットの闘士君です。長い黒い紙を巻いて、目を指して、海を飛びます。四枚つなげると、長い黒い紙を巻いて、目を指して、海を飛びます。双二

